

(シンポジウム紹介)

日本大学は多くのバイオ系学部を擁し、優れたバイオ研究者がいるにも拘わらず、スケールデメリットとして各学部が分散している。そこで学内のバイオ系研究者が一同に会し、先端バイオの発表をする日本大学先端バイオフォーラムを行うことにより、情報交換、技術の公開と融合、産学連携、および共同研究ができやすい場を設け、その力を結集して総合大学としてバイオ研究の底上げが出来る。日本大学先端バイオフォーラムは平成 17 年に始まり、平成 21 年度には当学部連携研究推進シンポジウムで第 6 回日本大学先端バイオフォーラムを開催し、多くのバイオ研究者の交流と認知、さらに共同研究へと発展した。

これにより、他学部バイオ研究者を認知が出来、他学部バイオ研究者の研究内容の把握と先端的研究方法の認知が出来る。また、研究者の交流による研究心の刺激が得られ、高度研究機器の共有とそれによる研究費の効率化が可能になる。更に、バイオシーズの公表と産学連携の推進により、日本大学での総合的バイオ研究拠点の形成から、現在企画されている研究推進機構の形成にもつながる。結果として、本学におけるバイオ研究が、先駆的研究成果を生み出すことにより、広く社会への成果還元が可能になると期待される。

第 7 回日本大学先端バイオフォーラムには多くの学部の先端バイオ研究者の参加を期待します。

第7回 日本大学先端バイオフィォーラム 開催と演題募集のお知らせ

日 程： 平成23年12月17日(土)
場 所： 日本大学桜門会館
参加費： 無料

日本大学先端バイオフィォーラムの目的

学内のバイオ系研究者が一同に会し、バイオ研究を紹介する先端バイオフィォーラムを行うことにより、情報交換、技術の公開と融合、産学連携、および共同研究ができやすい場を設け、その力を結集して総合大学としてのバイオ研究の底上げを目的としております。

演題募集要項

学内バイオ研究者の紹介したい研究演題を募集します。バイオテクノロジーを歓迎します。A4ファイル1枚にword形式で作成し、事務局までメールにて送信して下さい。見本を添付いたしますので参考にして下さい。
(図を1枚程度入れて下さい。)

事務局 片川まゆみ E-mail: katakawa.mayumi@nihon-u.ac.jp
〒173-8610 板橋区大谷口上町30-1 医学部リサーチセンターB1F
tel. 03-3972-8111 (PHS 8546)
fax. 03-3972-8666

演題締切り:平成23年10月1日(土)

代表幹事 日本大学大学院総合科学研究科 福田 昇

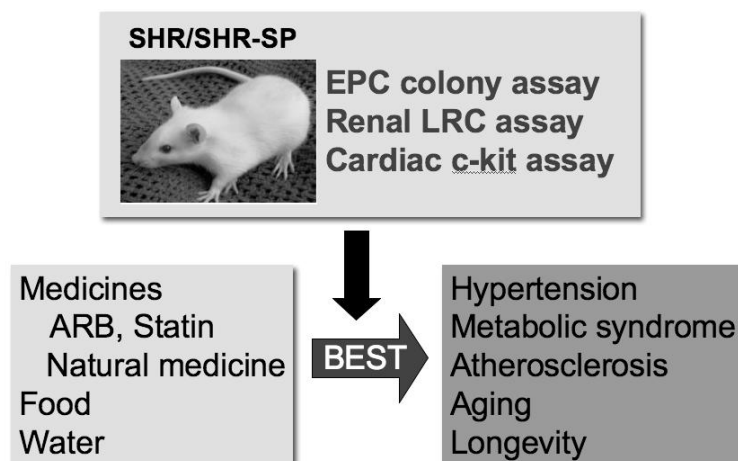
薬剤および食品による保存的再生医療の体系化

福田 昇^{1,2)} 上野高浩²⁾ 松本太郎²⁾ 片川まゆみ²⁾ 松本紘一²⁾ 北中 進³⁾ 飯島 洋³⁾
家森幸男⁴⁾

¹⁾大学院総合科学研究科 ²⁾医学部腎臓高血圧内分泌内科学 ³⁾薬学部 ⁴⁾武庫川女子大学国際開発研究所

<連絡先> 福田 昇 fukuda.noboru@nihon-u.ac.jp

再生医療は臓器不全に対する次世代の治療として期待されているが、細胞移植再生医療の実現化には未だ多くのハードルがある。幹細胞や前駆細胞は胎生期の器官形成に関わっているが、心臓や腎臓などの成人の分化臓器に存在し自己修復細胞として組織再生を起こすことが分かってきた。我々はこれまで抗酸化薬剤が組織幹細胞や前駆細胞の機能を高める事を見だし、既存薬剤による自己修復細胞の機能を高める保存的再生医療として提唱し、体系化してきた。



このプロジェクトでは総合科学研究科、医学部の共同で高血圧ラットを用いて、組織アンジオテンシン (Ang II) 系による血管内皮前駆細胞(EPC)および血管芽細胞の調節機構と Ang II 受容体拮抗薬の作用を明らかにする。薬学部で高血圧ラットを用いて、種々抗酸化生薬による EPC、心筋幹細胞、腎幹細胞機能の活性化作用を比較検討する。医学部と武庫川女子大学との共同で抗酸化食品および食生活習慣が修復細胞である EPC の機能への影響を評価する。

これらの結果から幹細胞や EPC 機能を高める薬剤、食習慣を確立し、これを啓蒙することにより、保存的再生医療及び抗老化再生医療として社会還元する。